



Japan Foundation for
Regional Art-Activities

地域創造レター

1月号—No.368
2026.1.1
(毎月1回25日発行)

News Letter to Arts Crew

【海棠色(かいどういろ)】海棠の花のような淡い紅色。

海棠は、春に桜とよく似た花を咲かせるバラ科の落葉広葉樹。中国原産。桜と違って花柄が長く、花が垂れ下がっているのが特徴。唐の玄宗皇帝が酔って眠る楊貴妃をこの花にたとえたことから、俳句の季語では別称を「睡れる花」ともいう。

●目次 / contents

地域創造理事長 新年のご挨拶.....2

財団からのお知らせ.....4

令和7年度「公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)」スタート
令和8年度「リージョナルシアター事業」全体研修会報告
雑誌『地域創造』第51号発行
「特別寄稿 ビューポイント view point」No.22について

今月の情報.....7

地域通信 / アーツセンター情報

今月のレポート.....12

富山県富山市 オーバード・ホール 大ホールクローズング記念公演
「Dancing Beethoven『踊れ! 第九』」

発行元：一般財団法人地域創造
〒107-0052 東京都港区赤坂2-9-11
オリックス赤坂2丁目ビル 9F
Tel. 03-5573-4093 Fax. 03-5573-4060
URL: <https://www.jafra.or.jp/>

～新年のご挨拶～

一般財団法人地域創造理事長 河内 隆

謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

地域創造が設立されて以来、32年目を迎えました。この長きに亘り様々な事業に取り組んでこられたのも、ひとえに知事・市区町村長の皆様、ホール・劇場・美術館等公立文化施設の皆様、アーティストの皆様をはじめとする多くの関係者のご尽力の賜物であり、改めて心から感謝申し上げます。

地域創造の担う事業の大きな柱の一つである公共ホール等活性化支援事業は、公立文化施設等の自主事業の企画・制作能力の向上等に資する「地域創造ならではのユニークな事業」という評価を得ています。ただ、十分ご活用頂けていない自治体・地域も残念ながら未だ残りますので、改めてその意味合いに触れさせていただきます。

各地域に派遣される地域創造登録アーティストは、音楽・現代ダンス・演劇等多様なジャンルに及び、いずれもが卓越した技量と魅力の持ち主であり、新たな刺激を与えることが出来る「地域活性化の“種蒔く方”」です。一方、自治体職員・公立文化施設等のスタッフは、派遣アーティストから多くの気づきを得て、今度は「その種を“根付かせる方”」と言えます。種から地中深くにしっかりと根を張らせることで土から水分と養分を吸い始め、このエネルギーを使って芽を伸ばす、この種蒔きからその後の施肥・除草等の手入れ、花を咲かせ、その種が“一年草”ではなく“多年草”として地域に定着していくよう、地域創造は「地域づくりの伴走者」の役割を担います。皆で力を合わせて、その地域ならではの文化・芸術の花を咲かせ続けるとともに、参加者の心の中に明日への希望や生きる力を植え付ける、そんな貴重な契機となることを願ってやみません。

地域創造は、「種を“根付かせる方”」を応援します。ステージラボや地域創造フェスティバルにて様々なメニューを用意しておりますので、大いにご活用いただくようお願い申し上げます。毎月発刊の「地域創造レター」や雑誌「地域創造」でも、皆様のお役に立つ情報を発信し続けますので、“多年草づくり”のご参考にして頂ければ幸いです。

もとより、公立文化施設等の直面する課題解決に資する調査研究事業は、いわば定期的な気象予報・地下水位管理・土壌改良に相当するもので、当財団の活動の基盤として皆様と研究結果を共有しています。また、風雪に耐えて花を咲かせ続ける地域伝統芸能などの貴重な取り組みにおいても、きめ細かな支援を続けて参ります。

目を社会に転じれば、人口減少・少子化進展・膨大な情報空間の中で、未来に不安を覚えたり、暮らしの余裕度からの経済格差が文化・芸術の体験格差をも招いているとの指摘もあります。しかしながら、こうした漠たる不安を抱え断片的情報に囲まれる時こそ、「ものの見方を変える処方箋」とも「人の心を動かす力」ともいえる文化・芸術の活動は益々求められると考えます。地域が元気にならないければ、日本も元気にならないでしょう。

今年の干支(えと)は「午(うま)」です。東洋では、動物の“馬”としてだけでなく「時間」と「太陽の力」を意味する(「午の刻(午前11時から午後1時までは太陽が最も高く上る時間帯)は、エネルギーを高める時」と申します。また西洋では、“馬”は自由・誇りを、特にペガサス(翼のある馬)は精神の飛翔・創造性発揮の象徴だそうです。

本年が、文化・芸術を通じた創造性豊かな地域づくりに向けて、各地域のエネルギーを高め、情熱をもって“新しい種蒔きと根付き”の挑戦に取り組む年となりますよう、地域創造は皆様と協力しながら活動してまいります。本年も何卒宜しくお願い申し上げます。

2026年1月

2026年1月～3月 地域創造事業スケジュール

当財団では年度末にかけて、全国各地でさまざまな事業を展開しております。

1月

- 地域創造セミナー
千葉県(千葉県文化会館)/1月28日
- 公共ホール音楽活性化事業
佐賀県嬉野市(嬉野市社会文化会館[リバティ])/1月15日～17日
山形県大石田町(大石田町町民交流センター虹のプラザ)/1月22日～24日
静岡県藤枝市(藤枝市民会館)/1月29日～31日
- 公共ホール音楽活性化事業(障がい者関連プログラム)
三重県伊賀市(伊賀市文化会館)/1月28日～29日
- 公共ホール邦楽活性化事業
島根県安来市(安来市総合文化ホール アルテピア)/1月15日～17日
佐賀県佐賀市(佐賀市立東与賀文化ホール)/1月15日～17日
長崎県大村市(大村市中央公民館)/1月22日～24日
- 公共ホール現代ダンス活性化事業
千葉県市川市Bプログラム1回目派遣(市川市文化会館)/1月23日～25日
- 公共ホール現代ダンス活性化障がい者関連事業
愛知県豊橋市1回目派遣(穂の国とよはし芸術劇場PLAT)/1月13日～14日
山形県鶴岡市1回目派遣(荘銀タクト鶴岡(鶴岡市文化会館))/1月28日～29日
- リージョナルシアター事業
三重県鈴鹿市2回目派遣(ハヤシユナイテッド文化ホール鈴鹿)/1月16日～19日
東京都国立市2回目派遣(FSXホール)/1月26日～29日
- 令和7年度地域創造大賞(総務大臣賞)表彰式(東京都・グランドアーク半蔵門)/1月16日

2月

- ステージラボ高知セッション(高知市文化プラザかるぼーと)/2月24日～27日
- 公共ホール音楽活性化事業
鹿児島県知名町(おきえらぶ文化ホール あしびの郷・ちな)/2月19日～21日
- 公共ホール音楽活性化事業(障がい者関連プログラム)
岡山県倉敷市2回目派遣(倉敷市玉島市民交流センター)/2月4日～6日
- 公共ホール音楽活性化・地域人材育成事業
長崎県長崎市(ベネックス長崎ブリックホール)/2月19日～20日
- 公共ホール現代ダンス活性化事業
千葉県市川市Bプログラム2回目派遣(市川市文化会館)/2月17日～22日
- 公共ホール現代ダンス活性化障がい者関連事業
愛知県豊橋市2回目派遣(穂の国とよはし芸術劇場PLAT)/2月17日～18日
- リージョナルシアター事業
兵庫県伊丹市2回目派遣(東り いたみホール)/2月3日～6日

3月

- 公立美術館地域展開型研修事業(美術館出前(オーダーメイド)型ゼミ)
奈良県立美術館/未定
 - 公共ホール音楽活性化事業
三重県鈴鹿市(ハヤシユナイテッド文化ホール鈴鹿)/3月5日～7日
 - 公共ホール邦楽活性化事業
宮崎県門川町(門川町総合文化会館)/3月12日～14日
 - 公共ホール現代ダンス活性化障がい者関連事業
山形県鶴岡市2回目派遣(荘銀タクト鶴岡(鶴岡市文化会館))/3月3日
-

財団からのお知らせ

●令和7年度公共ホール音楽活性化事業

◎実施団体

(主会場/アーティスト/日程)

- 沖縄県宮古島市(宮古島市文化ホール/山崎由貴/11月14日～16日)
- 愛知県阿久比町(アグピアホール/小野寺光/11月27日～29日)
- 岐阜県高山市(こくふ交流センター/山崎由貴/12月5日～7日)
- 宮城県登米市(水の里ホール・Abebisou/山崎由貴/12月18日～20日)
- 福井県おおい町(おおい町総合町民福祉センター/小野寺光/12月18日～20日)
- 佐賀県嬉野市(嬉野市社会文化会館[リパティ]/小野寺光/1月15日～17日)
- 山形県大石田町(大石田町町民交流センター虹のプラザ/山崎由貴、小野寺光/1月22日～24日)
- 静岡県藤枝市(藤枝市民会館/三原未紗子/1月29日～31日)
- 鹿児島県知名町(おきえらぶ文化ホールあしびの郷・ちな/北垣彩、山崎由貴/2月19日～21日)
- 三重県鈴鹿市(ハヤシユナイテッド文化ホール鈴鹿/鈴木舞、北垣彩/3月5日～7日)

◎問い合わせ

芸術環境部 金山・北川
Tel. 03-5573-4168

●令和7年度「公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)」がスタート

「公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)」では、クラシック音楽にふれる機会の少ない方や地域の方々にとって新たな発見や交流の場になることを目指し、工夫を凝らしたコンサートとアクティビティ(地域交流プログラム)を実施しています。令和7年度は、今年から一新した5組の登録アーティストが全国10カ所の地域に赴き、音楽を届けます。今号では、11月14日～16日に開催した沖縄県宮古島市と、11月27日～29日に開催した愛知県阿久比町の模様をご紹介します。

宮古島市は、沖縄本島から南西約300kmに位置し、宮古島、池間島、来間島、伊良部島、下地島、大神島の大小6つの島で構成されています。市制施行20周年を記念し、ユーフォニアム奏者の山崎由貴さんと共に、市の中心である宮古島と、大橋で結ばれた3つの離島(池間島、来間島、伊良部島)でのアクティビティを実施しました。

多くの留学生が在籍する宝塚医療大学宮古島キャンパスでのアクティビティは、身振り手振りを加えた優しい日本語でのコミュニケーションを図りながら進行しました。最後に「みなさんの国にいるお友達やご家族を思い出しながら聴いてください」という山崎さんのメッセージとともに『ふるさと』を演奏し、異国で暮らす留学生たちにエールを送りました。

最終日のコンサートは幅広い世代が楽しめるよう2部構成とし、1部は『さんぽ』のメロディーとともに、山崎さんが客席から演奏しながら登場。0歳から入場可能なコンサートとして子どもたちに馴染みのある楽曲を披露しました。2部はよりユーフォニアムの音色を楽しめるプログラムとして、クラシックの名曲や『宮古島市歌』を演奏し、客席との一体感に包まれるステージとなりました。最後は山崎さんが「いつか挑戦したいと思っていた」と

語った沖縄出身の作曲家・M.ケンツビッチによるユーフォニアムの名曲『レジェンド』を演奏。沖縄音階とともに描かれる美しい海や伝統、そして戦争の記憶や平和への願いを込めた難曲に、会場全体が聴き入りました。

阿久比町は、名古屋市の南側、知多半島の中央部に位置しており、豊かな自然と都市近郊の利便性を併せ持つ町です。子育て世代も多いこの町で若い世代が音楽にふれて楽しさや面白さを感じ、そしてその思いを家族間で共有してほしいという担当者の思いのもと、バス・バリトン歌手である小野寺光さんと、町内にある4つの小学校でアクティビティを実施しました。

初日に訪れた英比小学校では、日本では『鬼のパンツ』として有名な『フニクリ・フニクラ』を小野寺さんがイタリア語で歌いながら登場。2番は日本語で担任の先生と一緒に歌うなど、直前で決まったコラボ演出もありました。『闘牛士の歌』では、初めに「viva(ヴィーヴァ)!!」「bravo(ブラーヴォ)!!」の掛け声をみんなで練習。会場の音楽室を闘技場に見立て、マントを羽織って闘牛士に変身した小野寺さんへ力いっぱい声援を送りました。

最終日のコンサートでは、1部で小野寺さんの思い入れの深い『星めぐりの歌』や次々に登場人物が入れ替わる『結婚万歳』などを、2部ではモーツァルト作曲のオペラをメインに情緒たっぷりに歌い上げました。MCでは、曲の説明やアーティストの人となりを知ることができるトークも交えつつ、和気あいあいとした雰囲気の中、オペラの魅力を存分に楽しめる素晴らしい公演となりました。ほぼ満席になった会場には小学校のアクティビティに参加した児童が家族と来場している姿もあり、未来への一步を感じさせたおんかつとなりました。



左:山崎由貴さんによるアクティビティ(沖縄県宮古島市)/右:小野寺光さんによるアクティビティ(愛知県阿久比町)

●令和8年度「リージョナルシアター事業」全体研修会報告

令和8年度リージョナルシアター事業の実施予定団体担当者と派遣アーティストが集まり、事業についてのオリエンテーションやディスカッション、企画打ち合わせ等を行う全体研修会を11月17日、18日の2日間にわたって開催しました。

地域の課題やホールの展望などを踏まえながら、住民等を対象にしたワークショップや学校へのアウトリーチ等を行う当事業は、派遣アーティストと実施団体が協働しながら企画し、プログラムを実施していきます。この研修会には、令和8年度に事業実施予定の5団体から7人の事業担当者が参加し、地域のこと、ホールがやりたいことや課題、演劇の手法を使ったワークショップの効果や可能性などを、事業担当者と派遣アーティストとの対話を通して共有することを目指しました。

研修会の初日は、派遣アーティストと事業担当者で顔合わせを行った後、本事業で行うワークショップについての理解を深めるため、アドバイザー兼派遣アーティストの田上豊さんと多田淳之介さんによる演劇の手法を使ったワークショップを体験しました。田上さんのワークショップでは、「勝ったら逃げるじゃんけん」のペアワークや「他己紹介」などのアイスブレイクとコミュニケーションのワーク、多田さんのワークショップでは、グループで行った「しりとり」をその時の雰囲気やかかった秒数も含めて再現するワークを行いました。それぞれ異なるアプローチから45分ずつ「演劇を教えない」ワークショップを実施し、参加者からは、「実際に体験できたことで事業をイメージしやすくなった」「演劇ワークショップの魅力と可能性を改めて実感する機会となった」などの意見がありました。

続いて行われたディスカッションの冒頭では、

多田さんと津村卓プロデューサーから「公共ホール概論」と題して、地域における公共ホールをめぐるこれまでの変遷や今後の在り方、拠点として求められるミッションなどについてお話いただき、その後、演劇ワークショップ体験や「公共ホール概論」を踏まえた意見交換を行いました。ワークショップ体験の感想やお互いの地域についての現状、悩みを共有し、解決に近づく方法を探り課題についてアイデアを出しあったり、過去の事例から事業実施後のホールが向かう先を考え、地域の特性に合わせてアーティストと一緒にできることを探ったり、それぞれにホールと地域との関わり方について考える機会となりました。

2日目は、事業の流れや注意事項などのオリエンテーションのほか、それぞれのホールのミッションや地域課題を基に、その地域ならではのプログラム実現に向けた話し合いがグループごとに行われました。派遣アーティストと各地域の状況や目的を話し合うことで、プログラムの内容だけでなく、新たな課題や、今後検討していくべきことが徐々に形になっていきました。

企画打ち合わせの後には、「自分の届けたいものより市民が欲していることを見据えてくれたことがプロの視点だと思った」「リージョナルシアター事業がもつオーダーメイド型の柔軟性を改めて実感した」「目的を見失わず、皆に協力をお願いしながら進めていきたい」など、事業内容のほかに、研修会を終えての変化や実施に向けた意気込みが語られました。

今後、実施予定団体は、来年度の企画実施に向けて地域課題や地域資源のリサーチを続けながら、派遣アーティストとの打ち合わせを行っていきます。各地域で行われる来年度の企画実施にご期待ください。



左：多田さんによるワークショップ体験／右：ワークショップ体験と公共ホール概論を踏まえての意見交換

●令和8年度「リージョナルシアター事業」

○派遣アーティスト

- 有門正太郎(演出家・俳優、有門正太郎プレゼンツ主宰)
- 福田修志(劇作家・演出家、F's Company代表)
- 越智良江(劇作家・演出家、演劇ユニットKOKOO主宰)
- 志賀亮史(演出家、百景社代表)
- 樋口ミユ(劇作家・演出家、Plant M主宰)

○アドバイザー兼派遣アーティスト

- 多田淳之介(演出家、東京デスロック主宰)
- 田上豊(劇作家・演出家、田上パル主宰)

○実施予定団体

- 札幌市(札幌市教育文化会館)
- 山梨県甲斐市(甲斐市双葉ふれあい文化館)
- 愛知県大府市(おおぶ文化交流の杜allobu)
- 大阪市(大阪市立芸術創造館)
- 宮崎県西都市(西都市市民会館)

○問い合わせ

芸術環境部 藤原・桑山
Tel. 03-5573-4124

財団からのお知らせ

●雑誌『地域創造』第51号を発行しました



文化・芸術を通じた地域づくりの事例を紹介する雑誌『地域創造』第51号を発行しました。特集1では、観光や賑わいづくり、福祉との連携などまちづくりへの貢献に取り組む美術館の事例を紹介します。特集2では、人材育成の新たな拠点として注目を集めている事例を紹介し、また、アウトリーチ活動を行うための地域人材として、登録アーティスト制を有する公立ホールの担当者による、各地域での取り組みを語り合う座談会なども行いました。

◎特集1「美術館の現在地」

- 鳥取県立美術館(鳥取県)
- コラム「もうひとつの県立美術館—和歌山県立近代美術館」
- 町立久万美術館(愛媛県久万高原町)
- 姫路市立美術館「オールひめじ・アーツ&ライフ・プロジェクト」(兵庫県姫路市)

◎特集2「人材育成の新拠点」

- 芸術文化観光専門職大学(兵庫県豊岡市)
- やまがたクリエイティブシティセンター Q1(山形県山形市)
- tsukurun GUNMA CREATIVE FACTORY / TUMO Gunma(群馬県)

◎空間のエスプリ—国際的事例のビジュアルレポート

- 韓国初の障害芸術人の標準劇場 モドゥ芸術劇場(Modu Art Theater)

◎体験レッスン—公立文化施設職員・文化政策担当者へのノウハウ伝授

- アーツカウンシルしずおかに地域のプレイヤーを増やす取り組みを学ぶ(静岡県静岡市)

◎SCOPE—地域の注目事例レポート

- ガラスの街とやま(富山県富山市)
- 100万人のクラシックライブ

◎座談会

- 登録アーティスト制度を語り合う

◎イラストSCOPE—伝統芸能・古典芸能・祭りなど伝承の取り組みのイラストレポート

- 伊勢大神楽総舞奉納(三重県桑名市ほか)

◎海外STUDY

- アートがひらく探究と共生—Arts-Based Researchが繋ぐ個とコミュニティ

◎BOOK

- 「新建築」2025年8月号・9月号

◎地域創造発行物のご案内

雑誌『地域創造』のバックナンバーや、地域創造レターで長年にわたって連載してきた制作基礎知識シリーズを中心にまとめたハンドブック『公立ホール・劇場職員のための制作基礎知識 増補版 2021年』などは、地域創造のホームページから入手が可能です。

*入手方法はこちらからご確認ください。 <https://www.jafra.or.jp/library/nyushu/>



●「特別寄稿 ビューポイント view point」No.22 掲載について

地域創造ホームページ限定で、有識者やキーパーソンから文化芸術および公立文化施設等におけるチャレンジングな取り組みを寄稿していただくコーナー「特別寄稿 ビューポイント view point」。

22回目となる今回は、金沢21世紀美術館館長の鷲田めるろ氏にご寄稿いただきます(1月更新予定)。

<https://www.jafra.or.jp/library/other/6902.html>



●雑誌『地域創造』に関する問い合わせ
芸術環境部 中嶋
Tel. 03-5573-4066

●「特別寄稿 ビューポイント view point」
に関する問い合わせ
芸術環境部 伊藤
Tel. 03-5573-4093

▼— 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

地域通信

●地域通信欄掲載情報について
最新の情報は主催者の発表情報をご確認ください。

●データの見方
情報は地域ブロック別に、開催地の北から順に掲載してあります。●で表示してあるのは開催地です。📍マークが付いている事業は地域創造の助成事業です。ラインの下は、事業運営主体、住所、電話番号、担当者名の順に記載してあります。色帯部分が事業名で、以下、内容を紹介しています。

●地域ブロック
[北海道・東北]北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
[関東]茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
[北陸・中部]新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
[近畿]三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
[中国・四国]鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知
[九州・沖縄]福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

●情報提供先
ファックス、電話、e-mailでお願いします。
Fax. 03-5573-4060 Tel. 03-5573-4093
letter@jafra.or.jp
芸術環境部 伊藤・中嶋

●2026年3月号情報締切
1月18日(日)

●2026年3月号掲載対象情報
2026年3月～5月に開催もしくは募集されるもの

北海道・東北

●札幌市

札幌文化芸術交流センター
SCARTS
〒060-0001 札幌市中央区北1条西1
Tel. 011-271-1955 櫛引彩乃
<https://www.sapporo-community-plaza.jp/scarts.php>

能藤玲子創作舞踊団 『神の舌—夢の入口』

北海道を拠点に活動する創作舞踊家・能藤玲子と彫刻家・砂澤ビッキ作品のコラボレーション2作目。砂澤の代表作『神の舌』に着想を得た新作舞踊を上演する。作品を所蔵する札幌芸術の森美術館との連携により実物を舞台美術として使用し、客演を含む11名のダンサーと共に「食」の危機感を描き出す。また、同年代のふたりの交流や活動の軌跡を紹介する展示をKitaraギャラリーで同時開催。
[日程]1月23日～25日
[会場]クリエイティブスタジオ(札幌市民交流プラザ)



リハーサルの様子。リハーサルは著作権者の承諾を得て実寸大の作品パネルを制作し使用 ©kenzo kosuge

●青森県青森市

青森県立美術館
〒038-0021 青森市安田字近野185
Tel. 017-783-3000 奥脇嵩大
<https://www.aomori-museum.jp/>

コスモスの咲くとき —地域に学び、平和を刻む教育版画の“いま”

版画のまち・青森で、平和を思い、生活を見つめることから生まれた「教育版画」に再注目した展示プロジェクト。教育版画運動をけん引した大田耕士らの作品や墨塗り教科書を起点に、1950～90年代の県内教育版画作品を軸とし、抵抗のアクションとしての版画を手がけるアート・コレクティブ「A3BC」の作品や、国を越えた子どもたちの版画交流の現在を紹介する。
[日程]2025年11月15日～4月12日
[会場]青森県立美術館

●秋田県秋田市

秋田市立千秋美術館
〒010-0001 秋田市中通2-3-8 (アトリオン内)
Tel. 018-836-7860 関彩与子
<https://www.city.akita.lg.jp/kanko/kanrenshisetsu/1003643/index.html>

「視線」で楽しむ美術

作品から鑑賞者へ送られる「視線」、鑑賞者の「視線」を導く構図上のテクニックなど、美術と視線の関係に注目した展覧会。感情が目にも宿る作品などを展示した「視線と感情」や、絵の中の視線を辿りながら描かれている「視線の先」など、5つのテーマを通して約50点の所蔵品の魅力を紹介する。
[日程]2025年11月22日～1月18日
[会場]秋田市立千秋美術館

●山形県東根市

東根市公益文化施設まなびあテラス
〒999-3730 東根市中央南1-7-3
Tel. 0237-53-0229 寒河江梢
<https://www.manabiaterace.jp/art-gallery/>

まなびあテラスパフォーミングアーツプログラム vol.1
「パレードへようこそ! feat.川口智子/安達修子」
まなびあテラスを舞台に、プロ

の演出家やダンサーと共に創作に関わることができる参加型プログラムが始動。今回は演出家の川口智子、山形在住の俳優・演出家の安達修子を迎え、1月17日、18日、24日に行われる演劇の連続ワークショップで、公募による参加者がパレードづくりに挑戦。完成したパフォーマンスは、25日の成果発表で披露される。
[日程]1月25日
[会場]東根市公益文化施設まなびあテラス

●山形県鶴岡市

荘銀タクト鶴岡
〒997-0035 鶴岡市馬場町11-61
Tel. 0235-24-5188 五十嵐風紀
<https://tact-tsuruoka.jp/>

つるか市民オペラ 喜歌劇「こうもり」

令和5年から行ってきた市民参加型事業プログラムの集大成となる公演。鶴岡市出身やゆかりのある指揮者・演出家・ソリストに加え、公募で参加した約90人の合唱団や大道具・小道具・衣裳などの裏方スタッフ、協力者と市民協働で事業を展開。劇中の仮面舞踏会では市民がワークショップで制作した仮面が使用される。開演前には演出家による制作の裏話を交えたプレトークを実施。
[日程]1月25日
[会場]荘銀タクト鶴岡

関東

●茨城県水戸市

水戸市民会館
〒310-0026 水戸市泉町1-7-1
Tel. 029-350-6060 和久井瑛理
<https://www.mito-hall.jp/>

梅×音楽 梅と花を彩る歌たち
～花にこめた人々の想いを歌にのせて
古くから水戸で親しまれてきた梅をテーマに、春の気配を感じ

られる音楽とトークを楽しむコンサート。鷺尾麻衣(ソプラノ)、坂下忠弘(バリトン)の歌声で、古今東西の花の歌や春にちなんだ曲を届ける。ゲストに脳科学者の茂木健一郎、ナビゲーターに浦久俊彦を迎え、軽快なトークも楽しめる。ワンドリンクを片手に、音楽とともに一足早い春をゆったりと満喫できる。

[日程] 1月31日
[会場] 水戸市民会館

さいたま市

さいたま市 プラザノース
〒331-0812 さいたま市北区宮原町1-852-1
Tel. 048-653-9255
<https://www.plazanorth.jp/>

左手のピアニスト 智内威雄リサイタル

埼玉県出身で、左手のピアニストとして活躍する智内威雄のリサイタル。ドイツ・ハノーファー音楽大学への留学中、右手に局所性ジストニアを発症したが、リハビリと左手のみでの奏法の研究を重ね、同大学を最優秀成績で卒業。以来、国内外でのコンサートや左手のためのピアノ音楽の発掘と普及に尽力している。左手から生まれる、心揺さぶる音色に注目。

[日程] 1月18日
[会場] さいたま市 プラザノース

千葉市

青葉の森公園芸術文化ホール
〒260-0852 千葉市中央区青葉町977-1
Tel. 043-266-3511 小澤憲之
<https://www.cbs.or.jp/aoba/>

第45回 青葉能

ホール開館以来、毎年実施している解説付き能公演。今回は今年で5回目の開催となる「みんなで能舞台に触れるWEEK!」の一環として実施。能『弱法師』や千葉県鴨川市にある清澄寺の

僧侶が登場する仕舞『鶴飼』などを上演するほか、ホールに能舞台を組み、創作狂言の上演や能舞台に上がる体験ができる「能舞台WALK」なども実施。

[日程] 1月18日
[会場] 青葉の森公園芸術文化ホール

東京都墨田区

すみだ北斎美術館
〒130-0014 墨田区亀沢2-7-2
Tel. 03-6658-8991 根岸美佳
<https://hokusai-museum.jp>

北斎でひもとく! 浮世絵版画大百科

北斎の『富嶽三十六景 神奈川沖浪裏』をはじめとした浮世絵版画は、一点物の肉筆画ではなく、量産して販売された商品である。江戸を訪れた人が土産として買って帰ることで広く流通し、多くの人々が目にする機会を生んだ。本展ではそのような浮世絵版画の歴史や技法、テーマを紐解き、江戸に生きる人々の身近な日常を垣間みることができる。

[日程] 2025年12月11日~2月23日
[会場] すみだ北斎美術館

横浜市

横浜美術館
〒220-0012 横浜市西区みなとみらい3-4-1
Tel. 045-221-0300 日比野民蓉
<https://yokohama.art.museum/>

横浜美術館リニューアルオープン記念展「いつもとなりにいるから日本と韓国、アートの80年」

横浜美術館リニューアルオープン記念展の最後を飾る企画展として、アートを通じて両国の歩みをたどる、国際的にも初の大規模展覧会を開催。日韓国交正常化60年を記念し、韓国の国立現代美術館との共同企画により、約3年の準備期間を経て実現。50組以上の作家に

よる約160点の作品が日韓両国から集い、日本初公開の作品や本展のための新作も展示されている。

[日程] 2025年12月6日~3月22日
[会場] 横浜美術館

北陸・中部

富山県富山市

富山県民会館
〒930-0006 富山市新総曲輪4-18
Tel. 076-432-3115 岡田祐佳
<https://www.bunka-toyama.jp/kenminkaikan/>

県民会館分祭り ~太鼓×獅子舞×よさこい~

2月の節分に合わせ、厄を払い、福を呼ぶ「節分祭り」を初開催。港で打ち鳴らし大漁を喜ぶ「氷見有磯太鼓」、江尻青年団による大正時代から続く氷見市源流の「百足獅子」、2012年に射水市で結成された湊やによる「よさこい」の演舞に、石川県指定無形文化財の「御陣乗太鼓」を加え、北陸に根づいた太鼓と舞が会場を盛り上げる。

[日程] 2月1日
[会場] 富山県民会館

山梨県甲府市

YCC県民文化ホール
〒400-0033 甲府市寿町26-1
Tel. 055-228-9131 伊藤駿
<https://www.yamanashi-kbh.jp/>

エピソード収集型ミュージカル 創作事業「concept musical “THE GALLERY”」

甲府市出身の俳優・声楽家の山野靖博が発起人となり、公募で集まった不思議な出来事や印象的なエピソードを基に創作するソングサイクル・ミュージカルのプロジェクト。1月13日から滞在制作を開始し、前半3日間は山梨県立大学、後半3日間は甲府市・能成寺でワークショップを行い、18日に同施設で発表する。

すべての創作過程が公開され、クリエイターの試行錯誤を体感できる。

[日程] 1月18日
[会場] 能成寺

岐阜県多治見市

パロー文化ホール
〒507-0039 多治見市十九田町2-8
Tel. 0572-23-2600 加藤久佳
<https://www.tajimi-bunka.or.jp/bunka/>

「シェイクスピアさんご免なさい」 ~魅惑の花には毒がある~

公募により参加した市民約50人が、経験の有無にかかわらず稽古を半年間重ね、「誰でも参加できる音楽劇」を上演する。“とにかく明るく楽しく笑える作品”を目指し、声楽家の江端智哉が脚本・演出を手がける本作では、タイトルにもなっている「シェイクスピアさんご免なさい」を伝えたいメッセージに掲げ、市民ひとりひとりの情熱が舞台上で音楽劇となって披露される。

[日程] 1月18日
[会場] パロー文化ホール



稽古の様子

岐阜県飛騨市

飛騨市美術館
〒509-4221 飛騨市古川町若宮2-1-58
Tel. 0577-73-3288 田村智揮
<https://www.city.hida.gifu.jp/site/museum/>

泉原昭人展 ~スタジオマンゴ スチンの世界~

飛騨市出身の映像作家・泉原昭人が版画家・溝上幾久子と設立

▼— 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

し、その短編アニメーション作品がベルリン国際映画祭をはじめ、国内外で高く評価されているスタジオマンゴスチン。本展では、泉原が繊細な筆致で描いた原画や資料などを展示する。近隣の小学生が描いた鳥の絵を基に、泉原が制作した新作アニメーションも展示室壁面に投影する。

[日程] 2025年12月6日～2月1日
[会場] 飛騨市美術館



泉原昭人《カワウソ》(2023年)

● 静岡市

SPAC-静岡県舞台芸術センター
〒422-8019 静岡市駿河区東
静岡2-3-1

Tel. 054-203-5730 森・久我
<https://spac.or.jp/>

SPAC秋のシーズン2025-2026 #3

『ガリレオ～ENDLESS TURN～』

ベルトルト・ブレヒトが、ガリレオの半生に自身を投影したとも言える戯曲『ガリレオの生涯』を、演出家の多田淳之介が現代からの新たな視座を加えて演出。台本作成にAIを活用し、人類史からガリレオの時代、そしてその先までを描く。情報があふれ、何が真実か見極めるのが難しい現代に、時代を超えて続く「真実」への問いを描く群集劇で、SPAC俳優20名が出演する。
[日程] 1月18日、24日、25日、2月1日、14日、15日、3月7日
[会場] 静岡芸術劇場

● 名古屋市

名古屋市文化振興事業団
〒460-0008 中区栄3-18-1
ナディアパーク8F
Tel. 052-249-9385 西山大志
<https://www.bunka758.or.jp/>

名古屋市文化振興事業団2026年企画公演 ミュージカル『赤毛のアン』

1985年から続く総合舞台芸術公演、第41作目はL.M.モンゴメリ原作の『赤毛のアン』。「舞台が舞台人を育てる」をキーワードに、オーディションで選ばれた出演者が4カ月間の稽古を経て作品を創り上げる。稽古伴奏ピアニストやオーケストラ奏者にも地域の若手人材を積極的に起用。第一線で活躍するクリエイションスタッフによる演出や音楽も見どころ。

[日程] 1月23日～1月25日
[会場] 名古屋市青少年文化センター

● 滋賀県東近江市

東近江市地域振興事業団
〒527-0039 東近江市青葉町1-50
Tel. 0748-23-6862 端洋一
<https://higashiomi-j.com/yokaichi-bungei/>

東近江創作ミュージカル2025

『木地師のふるさと東近江 惟喬親王伝説』

キャストやスタッフを市民から公募して創り上げるミュージカル。奥永源寺地域で“木地師(ろくろを使う職人)の祖”として語り継がれる惟喬親王(844～897)の伝承を題材に、自然の中で誇りをもって生きることを描く。演出・脚本の中村暁(宝塚歌劇団)が実際に木地師の工房を取材。キャストは8月から稽古を重ね、舞台美術や衣装も市民の手づくり。一人ひとりが“自分たちの作品”として本番に臨む。

[日程] 1月31日、2月1日
[会場] 八日市文化芸術会館

近畿

● 京都市

ロームシアター京都
〒606-8342 京都市左京区岡

崎最勝寺町13
Tel. 075-771-6051 山本恵子
<https://rohmitheatreyokyo.jp/>

プレイ!シアター for the 10th anniversary オープンデイ

リニューアル10周年を迎えるロームシアター京都の誕生日会さながら、劇場全体が祝祭空間に変わり、子どもから大人まで楽しめる2日間のオープンデイを開催。古典芸能やコンサートなどの多彩なステージのほか、ロームシアターのこれまでの歩みと未来を体感できるプログラム、劇場について考えるトークイベントなど、地域のアーティストや関連団体による多彩なプログラムで来場者を迎える。

[日程] 1月10日、11日
[会場] ロームシアター京都

● 奈良県奈良市

なら100年会館
〒630-8121 奈良市三条宮前町7-1
Tel. 0742-34-0100 菊本智
<https://www.nara100.com/>

なら100クラシックコンサート 『未来へ繋ぐクラシック ～若手ピアニストの響演～』

なら100年会館では、これまで「なら100年会館若手演奏家育成事業」を実施し、文化を担う人材の育成に力を入れてきた。今回、新たに「未来へ繋ぐクラシック」と題して、2000年代生まれの若手ピアニストによるコンサートを企画。出演する岸本瑞樹、大月春乃、河崎翔貴は共に奈良県出身で、このコンサートを機に今後の活躍が期待される。
[日程] 1月18日
[会場] なら100年会館

中国・四国

● 島根県松江市

松江市スポーツ・文化振興財団
〒690-0017 松江市西津田6-5-44

Tel. 0852-27-6000 平江・吉岡
<https://www.ploverhall.jp/>

新松江市合併20周年記念「耳なし芳一 ～小泉八雲の世界～」

連続テレビ小説『ばけけ』でも話題となった小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)が、1904年に文学作品として出したことで広く知られるようになった怪談「耳なし芳一」が、邦楽器と洋楽器、日本語と英語、古典音楽と現代音楽の融合によって蘇る。八雲の描いた怪談の世界観を、作曲・指揮・音楽監督の菅野由弘が、さまざまな楽器と語りによって演出。語りは俳優の竹下景子と村雨辰剛。

[日程] 1月24日
[会場] さんびる文化センタープラバホール

● 岡山市

おかもやインクルーシブフェスティバル実行委員会事務局
〒700-0822 岡山市北区表町3-7-5
Tel. 086-953-4446 深谷千草
<https://www.okayama-inclusivefes.com>

おかもやインクルーシブフェスティバル2026

“生きる喜びと痛みをともに称え合う”をテーマに「包みこむ社会」の実現を目指す取り組み。メインイベントとして、公募したアートや作文、パフォーマンスを表彰する演劇形式の表彰式「魔法の森のアワードパーティー」と、「老いと演劇OiBokkeShi」主宰の菅原直樹が構成・演出を務め、公募により選出された出演者をつくり上げる特別公演『人生相談天国』がハレノワで開催される。
[日程] 2月1日～15日
(メイン日程は2月11日)
[会場] 岡山芸術創造劇場 ハレノワほか市内各所

● 広島県福山市

ふくやま芸術文化財団

〒720-0802 福山市松浜町2-1-10

Tel. 084-928-1800 藤井竜

<https://www.fukuyamabunkahall.jp/r-rose/>

街中に響く歌声♪ふくやま コーラスフェスティバル2025

備後地域で活動する40以上のコーラス団体が一堂に会する大規模なフェスティバル。児童合唱団から大人の合唱グループまで幅広い層が参加し、世代を超えた交流の場にもなっている。フィナーレでは、ステージと客席を含めた参加者全員で『ふるさと』の大合唱を行う。さらに、府中市の土井範江(ソプラノ)をゲストに迎え、華やかな舞台を彩る。

[日程]1月25日

[会場]ふくやま芸術文化ホール
リーデンローズ

● 山口県美祢市

秋吉台国際芸術村

〒754-0511 美祢市秋芳町秋吉50

Tel. 0837-63-0020 高木絃子

<https://aiav.jp/>

秋吉台芸術祭 組曲「山頭火」

山口県出身で自由律俳句の代表的俳人・種田山頭火(1882～1940)。1988年に管弦楽と合唱のために作曲され、山頭火が行乞の旅で見た世界と心情を、音楽と朗読で描いた組曲『山頭火』を室内楽版として編曲し、新たに描き下ろされた美術とともに演奏する。山頭火を題材とした新作落語も披露され、山口の偉人の世界を多角的に描く。

[日程]1月25日

[会場]秋吉台国際芸術村

九州・沖縄

● 熊本市

熊本県立劇場

〒862-0971 熊本市中央区大

江2-7-1

Tel. 096-363-2233 中野萌

<https://www.kengeki.or.jp/>

熊本県立劇場×熊本市消防音楽隊 避難訓練コンサート

熊本県立劇場と熊本市消防局が連携して開催する避難訓練コンサート。熊本地震から10年の節目に改めて防災を考えようと企画された。公演中の火災を想定した避難訓練、消防レクチャー、そして消防音楽隊による『365歩のマーチ』など心温まる演奏のほか、館内外で「ワクワク消防たいけん」と題した煙体験、VR消火体験など、楽しく学べる企画が満載。

[日程]1月31日

[会場]熊本県立劇場

● 熊本県宇城市

不知火美術館・図書館

〒869-0552 宇城市不知火町高良2352

Tel. 0964-32-6222 三浦梓

<https://www.museum-library-uki.jp/museum/>

PERMANENT MODERN 有田正博の眼

50年にわたって熊本から独自のファッション文化を発信し続けた有田正博の審美眼を紹介する初の展覧会。有田自身の多岐にわたるコレクションや、これまで経営してきたセレクトショップに関する貴重なアーカイブ展示のほか、有田と親交が深い熊本のアーティストである坂口恭平との対談映像も上映。会場には定期的に展示替えを行うショーウィンドウがあり、会期中に何度でも来場できる。

[日程]2025年12月6日～1月28日

[会場]不知火美術館・図書館

● 大分県日田市

日田市民文化会館「パトリア日田」

〒877-0016 日田市三本松1-8-11

Tel. 0973-25-5000 川端都古

<https://www.patria-hita.jp/>

パトリア音楽ワークショップ 「ノムさんと一緒に日田の曲を作ろう」

パトリア日田15周年記念イベントをプロデュースした作曲家・野村誠が再び手がけるワークショップ&コンサート。公募の市民10人が日田をテーマに全11回のワークショップで音楽を制作し、最終日のコンサートで発表する。制作した作品は令和9年の開館20周年イベントでも披露され、音楽を通じて地域の魅力を再発見できる。

[日程]2025年8月9日～1月25日

[会場]日田市民文化会館「パトリア日田」



ワークショップの様子

● 大分県大分市

iichiko総合文化センター

〒870-0029 大分市高砂町2-33

Tel. 097-533-4004 今川涼香

<https://emo.or.jp>

大分民俗芸能まつり

人々の暮らしの中で生み出され伝承されてきた民俗芸能を改めて見つめ直し、大分と芸能の魅力を再発見する新企画。県内各地域に数多く受け継がれる芸能から5団体をピックアップし、多世代にわたる出演者が一堂に会して披露する。芸能の魅力を実演者が語るレクチャーの開催や、チラシに英語併記の見どころ紹介を掲載するなど、次世代への継承と国内外への発信にも力を入れる。

[日程]1月24日

[会場]iichiko総合文化センター

● 鹿児島県霧島市

霧島国際音楽ホール(みやまコンセル)

〒899-6603 霧島市牧園町高千穂3311-29

Tel. 0995-78-8000 川口裕介

<https://miyama-conseru.or.jp/>

第16回みやまスペシャル・コンサート「天国」か「地獄」?!

県民に気軽な音楽鑑賞の機会を提供するためのミニコンサートやアウトリーチを実施する、みやまコンセル協力演奏家たちによる特別プログラム。ピアノやパイプオルガン、弦楽器、管楽器、打楽器に声楽家陣が加わり、バッハやオッフェンバックの名曲を通して、言葉から想像する光景とは異なる、新たな「天国」と「地獄」の世界を表現する。

[日程]1月11日

[会場]霧島国際音楽ホール(みやまコンセル)

講座・シンポジウム

世界劇場会議フォーラム2026 in たけとよ「劇場100年時代は来るのかPart3 ～劇場再生 ヒトとモノ～」

全国のホール・劇場の最新情報や先進事例、運営課題について自治体や企業、研究者、建築家らが集い、フォーラムを開催。イマージン(没入型)音響システムの紹介、百年前の劇場(大阪市中央公会堂)と最新劇場(丸亀市民会館)の事例、地域の芸術体験格差解消に向けての事例、全国的にも珍しいNPOと行政の共同運営を開館時から続ける武豊町民会館の事例発表などを行う。

[日程]2月26日、27日

[会場・問い合わせ]武豊町民会館(ゆめたろうプラザ)

Tel. 0569-74-1211

yumepura@yumetaro.net

<https://yumetarou-kaikan.net/>

▼今月の情報(アーツセンター編)

新たにオープンした公立のアーツセンターを紹介します

アーツセンター情報

●データの見方

情報は所在地の北から順に掲載しています。●で表示してあるのはアーツセンターの所在地です。以下名称、住所、電話番号、公式サイトURLを記載しています。また、基礎データとして、設置者、運営者、ホール席数など施設概要を紹介しています。

●情報提供のお願い

地域創造では、地域の芸術環境づくりを積極的に推進するアーツセンター(ホール、美術館などの施設のほか、ソフトの運営主体も含みます)の情報を収集しています。特に、新規の計画やオープンなどのトピックスについては、この情報欄に掲載していく予定です。このページに掲載を希望する情報がございましたら、下記担当までご連絡ください。

●情報提供先

芸術環境部 伊藤
Fax. 03-5573-4060
Tel. 03-5573-4093
letter@jafra.or.jp

●茨城県桜川市

桜川市生涯学習センター さくらす

〒309-1214 桜川市東桜川1-21-1
Tel. 0296-71-7702
<https://sakurasu-sakuragawa.jp>

◎2025年2月2日オープン



2022年の岩瀬中央公民館の閉館後、その跡地に整備された複合型施設。

講演やライブにも利用可能なホール、キッチンが備わった多目的スペース「クリエイティブハブ」、畳をフロアに敷くこともできるスタジオやサイレントルームなどを備え、屋外には風景を眺めながら休憩ができるテラスを設置。

正式オープンに先立って市内初の図書館法が示す基準を満たし1月30日にプレオープンした図書館は、2・3階の壁一面に図書を配置する「メディアマウンテン」、テーマや関連情報をタッチパネル上に表示する「みどころキューブ」など、ユニークな機能が導入されている。

「風景・文化・活動」が将来にわたって繋がっていく施設として、市民の新たな文化交流と学びの場となっている。

[オープニング事業]さくらす開館記念公演 能「桜川」

[施設概要]やまなみホール(180席)、市役所支所(令和10年開庁予定)、クリエイティブハブ、図書館、スタジオ、会議室 ほか

[設置者]桜川市

[管理・運営者]図書館流通センター・アビック共同事業体

[設計者]佐藤総合計画・AkH建築設計室設計共同体

●横浜市

ボッシュ ホール (都筑区民文化センター)

〒224-0003 横浜市都筑区中川中央1-9-33
Tel. 045-530-5084
<https://tsuzuki-wcc.jp/>

◎2025年3月15日オープン



©Shimao Nozomu / SS Co.,Ltd.

横浜市が地域に根ざした個性ある文化の創造をミッションとする区民文化センター。その13番目の施設がボッシュ(株)がネーミングライツ・スポンサーとなって都筑区に開館。

事業提案型の市有地活用事業により、官民連携プロジェクトとして、「歴史ある都筑の文化とグローバルテクノロジー企業のFusion(融合)による、新しい未来型文化拠点づくり」をコンセプトに、ボッシュ・グループ本社および研究開発拠点と同一敷地内に一体計画された。

外観はアルミルーバーを3色ランダムに塗り分け、過去・歴史と未来が地層のように折り重なる様子を表現。ホールを中心に展開される文化芸術活動と企業によるイノベーションがシナジーを生み、都筑区全体の魅力向上に繋がると期待されている。

[オープニング事業]東亮汰ヴァイオリンPLUSハマのJACKオーケストラ、都筑DREAM & Culture FESTIVAL ほか

[施設概要]ホール(定員305名/座席301席・車いす席4)、ギャラリー、リハーサル室、練習室、会議室 ほか

[設置者]横浜市

[管理・運営者]つづきアート&メディアパートナーズ

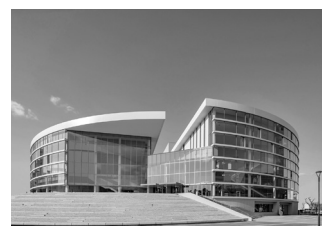
[設計者](株)竹中工務店

●福岡市

福岡市民ホール

〒810-0001 福岡市中央区天神5-2-2
Tel. 092-734-5570
<https://www.fukuoka-civic-hall.jp/>

◎2025年3月28日オープン



1963年開館から61年が経過し、老朽化した福岡市民会館の後継施設としてオープン。

BTO方式のPFIで行う「福岡市拠点文化施設整備及び須崎公園再整備事業」の一環として建設された地下1階・地上5階建ての建物は、円形・ガラス張りの開放的なデザインが特徴で、市民会館と比べて延床面積は2倍強の2万平方メートルの規模を誇る。大ホールの緞帳には最大規模の博多織を使用。

那珂川沿いの市民会館跡地には「水辺に開かれた公園」が整備される予定で、ホールと公園が一体となって、緑や水辺の魅力溢れる文化芸術空間を創出し、多くの人が集い、新たな交流や文化が生まれる場所となることを目指している。

[オープニング事業] MISIAコンサート、地元劇団らによる松居大悟演出の演劇公演、インクルーシブエンジョイコンサート、市内出身音楽家によるリサイタル
[施設概要]大ホール(2,016席)、中ホール(815席)、小ホール(仮設150席)、リハーサル室、練習室、エントランスホール ほか

[設置者]福岡市

[管理・運営者](株)福岡カルチャーベース

[設計者]梓設計・俊設計・戸田芳樹風景計画共同企業体

▼— 今月のレポート

財団の支援事業や地域の創造活動に参考になる催しを取り上げてレポートします

富山県富山市

オーバード・ホール 大ホール
クロージング記念公演

「Dancing Beethoven 『踊れ! 第九』」



「踊れ! 第九」 ©Tachi Takeshi

●オーバード・ホール 大ホールクロージング記念公演「Dancing Beethoven『踊れ! 第九』」

【会期】2025年11月15日、16日

【会場】オーバード・ホール 大ホール

【主催】(公財)富山市民文化事業団、富山市

【演出・振付】森下真樹

【音楽監督・指揮】辻博之

【出演】森下真樹、森下スタンド ルードヴィヒ5 (伊藤奨、黒田勇、島田惇平、中村駿、中村理)、 「踊れ! 第九」舞踊団、 「踊れ! 第九」声楽アンサンブル、 「踊れ! 第九」管弦楽団

*森下真樹振付・出演『踊れ! 第九』

可見市文化創造センターalaで毎年行われている市民100人が可児交響楽団の生演奏で踊る「オーケストラで踊ろう!」で2016年に森下真樹がベートーヴェンの交響曲第5番「運命」を振付。それを契機に、今度は第9番を自らの振付作品として19年にスタジオHIKARIで音源を使用して「ベートーヴェン交響曲第9番全楽章を踊る」を初演。2024年に神奈川フィルハーモニー管弦楽団の生演奏により「踊れ! 第九」(神奈川県民ホール)として再演。

大規模改修のため約2年間休館するオーバード・ホール 大ホールがオーケストラの生演奏でベートーヴェンの交響曲第9番を一曲丸ごと使って踊り切る『踊れ! 第九』でクローズした。舞台上上がったのは、高校生や大学生など若手を多数含むオケ79名、13歳から71歳までの市民ダンサー24名、プロダンサー6名、声楽アンサンブル28名の総勢約140名。森下真樹(振付・演出・出演)と辻博之(音楽監督・指揮)の変幻自在なリードにより、森下のソロから5名のプロダンサーによる苦悩、そして声楽家もオケもダンサーも指揮者もパフォーマンスするフィナーレへ。そこにはさまざまな壁を越えて湧き上がるプリミティブな喜びがあった。

クロージングを企画した制作統括の福岡美奈子さんは、「オーバードの前身である富山市民公会堂時代から60回にわたって300人規模の市民合唱団が出演する『第九』が年末の風物詩になっていました。神奈川県民ホールで森下さんの『踊れ! 第九』(*)を見て、市民のための劇場でありたいと願っているオーバードらしく、もっと市民が参加したかたちにしてクロージングを飾りたいと、その場で森下さんに依頼しました。指揮は他分野とのコラボレーションもされている辻さんにお願ひしました」と振り返る。

2024年末に行った森下による市民とのワークショップを手始めに、25年5月にダンサー(中学生以上、要舞台経験)と声楽家を公募してオーディション。オケは設立されたばかりの富山ジュニアオーケストラの協力で、次世代を担う高校生や大学生など若手を多く含む編成となった。

「ベートーヴェンの全交響曲をダンス作品化する」と公言している森下は、「音楽にはかなわない、どうしたら音楽に負けない踊りができるんだろうという思いしかなくて。どうせやるならベートーヴェンに挑もうと始めました。徹底的に曲を聴き込んで、音楽の隙間に入り込んだり、抵抗したりしながら振付をつくっています」と言う。

オケとダンスが交流できるようになるためにはステージ上の空間の再構築が必須だ。オケを舞台奥に配置し、反射板すら撤去してダンス

のための奥行き約9mの空間を確保。オケの後ろに人が歩ける高さ2メートルのブリッジを設置し、そこから森下がオケの中央を縦断して指揮台まで降りて踊る。押し出された指揮者もダンサーに混じって踊る……。こうした型破りなシーンが実現できたのは、森下のアイデアに応えた辻の存在があったからだ。

「僕はやりもしないのにできないというのが一番嫌なんです。それに作曲家の資料では、身体表現と一緒にやりたいと書いてあるんですよ。第4楽章の歌詞を手話で表現しているホワイトハンドコーラスの仲間が稽古に来てくださり、『初めて第1楽章から第3楽章が聴けた』と喜んでくれた。身体表現があるから目で曲を感じることができたんです。ほとんど耳が聞こえない中で『第九』を書いたベートーヴェンの思いが時を超えて繋がったようで感動しました」

オケにヴァイオリンで参加した高校生の大道心香さんは、「いつもは楽譜通りに弾いているけれど、今回は規格外のことばかりで楽しかったです。踊り出した指揮者を見たときは『世界は広いな…』と思いました」と笑う。

オーケストラマネージャーを務めた大田和樹さんは、「一言で言えば『ごった煮のエネルギー』がありました。森下さんと辻さんが、クラシック音楽の『譜面忠実』とコンテンポラリーダンスの『自由表現』という正反対の価値観を繋いだのです」と話す。

大ホール休館中は、23年に開館した中ホールや市民芸術創造センター(練習施設)などを活用し、大型招聘ではなく「自分たちでつくる」クリエイション事業に注力したいと福岡さんは言う。

「劇場というハードウェアの改修期間は、同時に組織というソフトウェアの強化期間であるべきだと思っています。職員みんなですっかり話し合い、劇場のミッションやビジョンを言語化し、共有したい。今回の『踊れ! 第九』で見せたような熱量を、一過性のものとしないうために」

舞台上の「歓喜」を劇場の持続可能な「未来」へと繋げられるか。この改修期間こそ劇場の真価が問われるのではないだろうか。

(舞踊評論家・乗越たかお)